



# Sun Cluster Data Service for Samba ガイド (Solaris OS 版)

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 819-1224-10  
2005 年 8 月, Revision A

Copyright 2005 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。©Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. ©Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行っています)。

「ATOK Server/ATOK12」に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザーインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: Sun Cluster Data Service for Samba Guide for Solaris OS

Part No: 819-1081-10

Revision A



050811 @ 12762



# 目次

---

はじめに 5

**Sun Cluster HA for Samba** のインストールと構成 11

Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成 11

Sun Cluster HA for Samba の概要 12

Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の計画 13

構成に関する制限事項 13

構成に関する要件 16

Samba のインストールと構成 22

Samba をインストールおよび構成するには 22

Samba のインストールと構成の確認 29

▼ Samba のインストールと構成を確認するには 29

Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール 31

▼ Web Start プログラムを使用した Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール方法 32

▼ `scinstall` ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする 33

Sun Cluster HA for Samba の登録と構成 34

▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Samba の登録と構成方法 34

▼ Winbind をスケーラブルサービス、Sun Cluster HA for Samba をフェイルオーバーサービスとして登録および構成する方法 37

Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認 39

▼ Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認方法 39

Sun Cluster HA for Samba のアップグレード 39

▼ Sun Cluster HA for Samba のアップグレード方法 40

Sun Cluster HA for Samba 障害モニターの概要 41

|                                        |    |
|----------------------------------------|----|
| リソースプロパティ                              | 41 |
| 検証アルゴリズムと機能                            | 41 |
| Sun Cluster HA for Samba のデバッグ         | 42 |
| ▼ Sun Cluster HA for Samba のデバッグを有効にする | 42 |
| 索引                                     | 45 |

## はじめに

---

『Sun Cluster Data Service for Samba ガイド (Solaris OS 版)』は、SPARC® と x86 ベースシステムでの Sun™ Cluster HA for Samba のインストールと構成について説明します。

---

注 - このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

---

このマニュアルは、Sun のソフトウェアとハードウェアについて幅広い知識を持っている上級システム管理者を対象としています。販売活動のガイドとしては使用しないでください。このマニュアルを読む前に、システムの必要条件を確認し、適切な装置とソフトウェアを購入しておく必要があります。

このマニュアルで説明されている作業手順を行うには、Solaris™ オペレーティングシステムに関する知識と、Sun Cluster とともに使用するボリューム管理ソフトウェアに関する知識が必要です。

---

注 - Sun Cluster ソフトウェアは、SPARC と x86 の 2 つのプラットフォーム上で稼働します。このマニュアル内の情報は、章、節、注、箇条書き項目、図、表、または例などで特に明記されていない限り両方に適用されます。

---

---

## UNIX コマンド

このマニュアルでは、Sun Cluster データサービスのインストールと構成に必要なコマンドについて説明しています。このマニュアルでは、基本的な UNIX<sup>®</sup> コマンドの包括的な情報や手順 (システムの停止、システムの起動、およびデバイスの構成など) については説明しません。基本的な UNIX コマンドに関する情報および手順については、以下を参照してください。

- Solaris オペレーティングシステムのオンラインドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムのマニュアルページ
- システムに付属するその他のソフトウェアマニュアル

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

| 字体または記号          | 意味                                          | 例                                                               |
|------------------|---------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| AaBbCc123        | コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。 | .login ファイルを編集します。<br>ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。<br><br>system% |
| <b>AaBbCc123</b> | ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。         | system% <b>su</b><br>password:                                  |
| <i>AaBbCc123</i> | 変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。            | ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。                          |
| 『』               | 参照する書名を示します。                                | 『コードマネージャー・ユーザーズガイド』を参照してください。                                  |
| 「」               | 参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。              | 第 5 章「衝突の回避」を参照してください。<br><br>この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。        |

表 P-1 表記上の規則 (続き)

| 字体または記号 | 意味                                     | 例                                                        |
|---------|----------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| \       | 枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。 | <pre>sun% grep `^#define \<br/> XV_VERSION_STRING`</pre> |

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

## 関連マニュアル

関連する Sun Cluster トピックについての情報は、以下の表に示すマニュアルを参照してください。すべての Sun Cluster マニュアルは、<http://docs.sun.com> で参照できます。

| トピック          | 関連文書                                                                                |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| データサービスの管理    | 『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』<br>各データサービスガイド                           |
| 概念            | 『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』                                                    |
| 概要            | 『Sun Cluster の概要 (Solaris OS 版)』                                                    |
| ソフトウェアのインストール | 『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』                                          |
| システム管理        | 『Sun Cluster のシステム管理 (Solaris OS 版)』                                                |
| ハードウェア管理      | 『Sun Cluster 3.0-3.1 Hardware Administration Manual for Solaris OS』<br>各ハードウェア管理ガイド |
| データサービスの開発    | 『Sun Cluster データサービス開発ガイド (Solaris OS 版)』                                           |
| エラーメッセージ      | 『Sun Cluster Error Messages Guide for Solaris OS』                                   |
| コマンドと機能       | 『Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS』                                       |

Sun Cluster のマニュアルの完全なリストについては、お使いの Sun Cluster のリリースノート <http://docs.sun.com> で参照してください。

## 関連するサン以外の Web サイトの引用

このマニュアル内で引用するサン以外の URL では、補足的な関連情報が得られません。

---

注 - このマニュアルで説明するサン以外の Web サイトの利用については、サンは責任を負いません。こうしたサイトやリソース上の、またはこれらを通じて利用可能な、コンテンツ、広告、製品、その他の素材について、Sun は推奨しているわけではなく、Sun はいかなる責任も負いません。こうしたサイトやリソース上で、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、製品、サービスを利用または信頼したことに伴って発生した (あるいは発生したと主張される) 実際の (あるいは主張される) 損害や損失についても、Sun は一切の責任を負いません。

---

---

## マニュアル、サポート、およびトレーニング

| Sun のサービス         | URL                                                                                 | 内容                                            |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| マニュアル             | <a href="http://jp.sun.com/documentation/">http://jp.sun.com/documentation/</a>     | PDF 文書および HTML 文書をダウンロードできます。                 |
| サポートおよび<br>トレーニング | <a href="http://jp.sun.com/supporttraining/">http://jp.sun.com/supporttraining/</a> | 技術サポート、パッチのダウンロード、および Sun のトレーニングコース情報を提供します。 |

---

## 製品のトレーニング

Sun では、各種のインストラクタ指導によるコースや自由なペースで進めることができるコースを通し、さまざまな Sun 技術のトレーニングを提供しています。Sun が提供しているトレーニングコースの情報や、クラスに参加する方法などについては、Sun Microsystems Training (<http://training.sun.com/>) を参照してください。

---

## 問い合わせについて

Sun Cluster をインストールまたは使用しているときに問題が発生した場合は、ご購入先に連絡し、次の情報をお伝えください。

- 名前と電子メールアドレス (利用している場合)
- 会社名、住所、および電話番号
- ご使用のシステムのモデルとシリアル番号
- Solaris オペレーティングシステムのバージョン番号 (例: Solaris 8)
- Sun Cluster のバージョン番号 (例: Sun Cluster 3.0)

ご購入先に連絡するときは、次のコマンドを使用して、システムの各ノードに関する情報を集めます。

| コマンド                              | 機能                                      |
|-----------------------------------|-----------------------------------------|
| <code>prtconf -v</code>           | システムメモリのサイズと周辺デバイス情報を表示します              |
| <code>psrinfo -v</code>           | プロセッサの情報を表示します                          |
| <code>showrev -p</code>           | インストールされているパッチを報告します                    |
| <code>SPARC:prtdiag<br/>-v</code> | システム診断情報を表示します                          |
| <code>scinstall -pv</code>        | Sun Cluster のリリースおよびパッケージのバージョン情報を表示します |

上記の情報にあわせて、`/var/adm/messages` ファイルの内容もご購入先にお知らせください。

# Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成

---

この章では、Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の方法について説明します。

この章の内容は次のとおりです。

- 11 ページの「Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成」
- 12 ページの「Sun Cluster HA for Samba の概要」
- 13 ページの「Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の計画」
- 22 ページの「Samba のインストールと構成」
- 29 ページの「Samba のインストールと構成の確認」
- 31 ページの「Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール」
- 34 ページの「Sun Cluster HA for Samba の登録と構成」
- 39 ページの「Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認」
- 39 ページの「Sun Cluster HA for Samba のアップグレード」
- 41 ページの「Sun Cluster HA for Samba 障害モニターの概要」
- 42 ページの「Sun Cluster HA for Samba のデバッグ」

---

## Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成

表 1 に、Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行なってください。

表 1 作業マップ : Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成

| 作業                                              | 参照先                                                                                      |
|-------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 インストールについて計画します。                              | 12 ページの「Sun Cluster HA for Samba の概要」<br>13 ページの「Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の計画」 |
| 2. Samba をインストールして構成します。                        | 22 ページの「Samba をインストールおよび構成するには」                                                          |
| 3 インストールと構成を確認します。                              | 29 ページの「Samba のインストールと構成を確認するには」                                                         |
| 4. Sun Cluster HA for Samba Package をインストールします。 | 33 ページの「scinstall ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする」                  |
| 5. Sun Cluster HA for Samba を登録して構成します。         | 34 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Samba の登録と構成方法」                              |
| 6. Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成を確認します。   | 39 ページの「Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認方法」                                        |
| 6. Sun Cluster HA for Samba をアップグレードします。        | 39 ページの「Sun Cluster HA for Samba のアップグレード」                                               |
| 7. Sun Cluster HA for Samba の障害モニターを理解します。      | 41 ページの「Sun Cluster HA for Samba 障害モニターの概要」                                              |
| 8. Sun Cluster HA for Samba をデバッグします。           | 37 ページの「Winbind をスケラブルサービス、Sun Cluster HA for Samba をフェイルオーバーサービスとして登録および構成する方法」         |

## Sun Cluster HA for Samba の概要

Samba は、SMB/CIFS クライアントにシームレスなファイルサービスとプリントサービスを提供する、オープンソース/フリーウェアスイートです。Samba は、GNU General Public License のもとで無料で利用でき、<http://www.samba.org> からダウンロードできます。Samba は SUNWsmbac、SUNWsmbar、SUNWsmbau、および SUNWsfman パッケージとして、Solaris 9 とともにパッケージ化されています。

Sun Cluster HA for Samba データサービスのメカニズムによって、Samba サービスの順序正しい起動、停止、障害モニター、自動フェイルオーバーを実行できます。次の Samba コンポーネントは、Sun Cluster HA for Samba データサービスによって保護されます。

表 2 コンポーネントの保護

| 構成要素                | コンポーネントを保護するデータサービス                                                                                                                                                                                 |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| SMB/CIFS            | Sun Cluster HA for Samba(Samba コンポーネント)                                                                                                                                                             |
| NetBIOS Name Server | Sun Cluster HA for Samba(Samba コンポーネント)                                                                                                                                                             |
| Winbind             | SPARC:Sun Cluster HA for Samba (Winbind コンポーネント — パッチ 113476-05 以降が適用された Solaris 8 または Solaris 9)<br><br>x86: Sun Cluster HA for Samba(Winbind コンポーネント — パッチ 114242 が適用された Solaris 8 または Solaris 9) |

---

## Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の計画について説明します。

### 構成に関する制限事項

ここでは、Sun Cluster HA for Samba にのみ適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、『Sun Cluster Release Notes』を参照してください。



---

注意 – これらの制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

---

- **Sun Cluster HA for Samba** データサービスの配備 – Sun Cluster HA for Samba データサービスは Samba と Winbind という 2 つのコンポーネントからなります。これらのコンポーネントを配備する場合の制限事項は、次のとおりです。
  - **Samba** コンポーネント — Samba コンポーネント(SMB/CIFS および NetBIOS Name Server) はスケラブルサービスとしては運用できません。そのため、Samba コンポーネント用の Sun Cluster HA for Samba データサービスは、フェイルオーバーサービスとしてのみ構成できます。

- **Winbind** コンポーネント — Winbind コンポーネントはフェイルオーバーサービスとしても、スケーラブルサービスとしても運用できます。そのため、Winbind コンポーネント用の Sun Cluster HA for Samba データサービスは、フェイルオーバーサービスとして構成することも、スケーラブルサービスとして構成することもできます。
- **ADS (Active Directory Support)** を備えた **Windows 200x** — Samba バージョン 3.0.x のみが使用できます。Samba バージョン 2.2.x には ADS の機能がありません。
- **Winbind** の配備 — Winbind の配備に関する制限事項は、次のとおりです。
  - **Samba** のバージョン — Winbind 機能を使用する場合は、Samba v2.2.4 またはそれ以降をインストールする必要があります。
  - **Solaris** のバージョン — 113476-05 またはそれ以降のパッチを適用した Solaris 9
  - マルチインスタンス — インスタンスがフェイルオーバーサービスであるか、スケーラブルサービスであるかに関係なく、配備できる Winbind のインスタンスは 1 つだけです。
- サポートされる構成 — 現在、Sun Cluster HA for Samba データサービスでサポートされるのは以下の構成に限られます。
  - Primary Domain Controller (PDC) 構成での Samba。
  - Samba PDC に対する Backup Domain Controller (BDC) 構成での Samba。
  - Winbind を使用しない、NT 4 ドメインメンバーとしての Samba。
  - Winbind を使用する、NT 4 ドメインメンバーとしての Samba (Solaris 9 の制限事項 (上述) を参照)。
  - Winbind を使用しない、ADS (Active Directory Support) メンバーを備えた Windows 200x としての Samba。
  - Winbind を使用する、ADS (Active Directory Support) メンバーを備えた Windows 200x としての Samba (Solaris 9 の制限事項 (上述) を参照)。
  - スタンドアロン構成での Samba。
- クラスタファイルシステムへの **Samba** のインストール — 以下の制限事項はすべての Samba の配布方法に適用されます。
  - **Samba** コンポーネント — 各 Samba インスタンスに *Samba NetBIOS* インスタンス名が反映された固有の構成ディレクトリを与える必要があります。この構成ディレクトリは、フェイルオーバーファイルシステムまたは広域ファイルシステムとしてマウントできます。
  - **Winbind** コンポーネント — Winbind コンポーネントは、単一インスタンスとしてしか配備できません。ただし、Winbind には依然として構成ディレクトリが必要です。この構成ディレクトリは、フェイルオーバーサービスの場合は、Samba コンポーネントと同じディレクトリであり、スケーラブルサービスの場合は独立したディレクトリになります。

---

注 - 広域ファイルシステムをマウントする場合は */global* という接頭辞を指定し、  
フェイルオーバーファイルシステムをマウントする場合は */local* という接頭辞を指  
定するようにしてください。

---

次の例の Samba は、<http://www.samba.org> から広域ファイルシステムにインス  
トールされており、その広域ファイルシステム内に 2 つの Samba インスタンス  
(SAMBA1 および SAMBA2) および Winbind があります。最後の出力は、Solaris  
Volume Manager を使用して配備された Samba に対応する */etc/vfstab* エント  
リのサブセットです。

例 1 Samba インスタンスと Winbind (広域ファイルシステムの場合)

```
# ls -l /usr/local
total 4
drwxrwxrwx  2 root    other      512 Oct  1 16:44 bin
lrwxrwxrwx  1 root    other      13 Oct 11 11:20 samba -> /global/samba
#
# ls -l /global/samba
total 18
drwxr-xr-x  2 root    other      512 Oct 11 15:00 bin
drwxr-xr-x  3 root    other      512 Oct 14 13:49 lib
drwxr-xr-x  6 root    other      512 Oct 11 15:00 man
drwxr-xr-x  2 root    other      512 Oct 14 10:05 private
drwxr-xr-x  7 root    other      512 Oct 14 13:39 SAMBA1
drwxr-xr-x  7 root    other      512 Oct 14 13:40 SAMBA2
drwxr-xr-x  6 root    other      512 Oct 11 15:01 swat
drwxr-xr-x  3 root    other      512 Oct 14 10:45 var
drwxr-xr-x  2 root    other      512 Jan 17 09:28 winbind
#
# more /etc/vfstab (Subset of the output)
/dev/md/dg_d6/dsk/d63    /dev/md/dg_d6/rdisk/d63    /global/samba
                        ufs      4          yes      logging,global
#
```

例 1-1 では、*Samba NetBIOS* インスタンス SAMBA1 の構成ディレクトリは  
*/global/samba/SAMBA1* です。*Samba NetBIOS* インスタンス SAMBA2 の構成ディレ  
クトリは */global/samba/SAMBA2* です。Winbind の構成ディレクトリは  
*/global/samba/winbind* です。

例 1-2 は、Samba が Solaris 9 からローカルファイルシステムにインストールされて  
おり、フェイルオーバーファイルシステムに 2 つの Samba インスタンス (SMB1 およ  
び SMB2) があることを示しています。最後の出力は、Solaris Volume Manager を使用  
して配備された Samba に対応する */etc/vfstab* エントリのサブセットです。

例 2 Samba インスタンス (フェイルオーバーファイルシステムの場合)

```
# ls -l /local/samba
total 4
drwxr-xr-x  2 root    other      512 Dec 19 15:51 SMB1
```

例 2 Samba インスタンス (フェイルオーバーファイルシステムの場合) (続き)

```
drwxr-xr-x  2 root    other          512 Dec 19 15:51 SMB2
#
# more /etc/vfstab (Subset of the output)
/dev/md/dg_d7/dsk/d70  /dev/md/dg_d7/rdisk/d70  /local/samba/SMB1
      ufs      3          no      logging
/dev/md/dg_d8/dsk/d80  /dev/md/dg_d8/rdisk/d80  /local/samba/SMB2
      ufs      3          no      logging
#
```

例 1-2 では、*Samba NetBIOS* インスタンス SMB1 の構成ディレクトリは /local/samba/SMB1 です。*Samba NetBIOS* インスタンス SMB2 の構成ディレクトリは /local/samba/SMB2 です。

## 構成に関する要件

これらの要件は、Sun Cluster HA for Samba にのみ適用されます。Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。



---

注意 - 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

---

ADS をサポートする Windows 200x サーバーのメンバーとして Samba をセットアップする必要がある場合、クラスタノードで *kerberos* を構成し、*Ldap* と *kerberos* 両方のサポートを指定して Samba をコンパイルする必要があります。この作業については、Samba のマニュアルを参照してください。

**Samba** コンポーネントと依存関係 — Sun Cluster HA for Samba データサービスは、Samba インスタンスとそれぞれのコンポーネントを保護するように構成できます。表 1-3 で、各コンポーネントとコンポーネント間の依存関係について簡単に説明します。

表 3 Samba と依存関係 (→ 記号で示す)

| コンポーネント      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Samba (必須)   | <p>→ <i>Winbind</i> リソース (Winbind と単一の Samba インスタンスを配備する場合)。詳細は、以下の説明を参照してください。</p> <p>→ <i>Winbind</i> リソースグループ (Winbind と複数の Samba インスタンスを配備する場合)。詳細は、以下の説明を参照してください。</p> <p>→ <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース</p> <p><i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソースは、Samba のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Samba が起動しないようにします。</p> |
| Winbind (任意) | <p>→ <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース</p> <p><i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソースは、Winbind のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Winbind が起動しないようにします。</p>                                                                                                                                                                         |

注 – Samba コンポーネントの詳細は、`smbd(8)`、`nmbd(8)`、`winbindd(8)`、および `smb.conf(5)` のマニュアルページを参照してください。

Winbind を使用する Samba のインスタンスが 1 つだけ構成に含まれる場合、Winbind リソースを Samba リソースと同じリソースグループに登録する必要があります。また、Winbind リソースが Samba リソースと同じ構成ディレクトリを使用するようにならなければなりません。Samba リソースの起動は Winbind リソースに依存するようにならなければなりません。Resource\_dependencies については、`r_properties(5)` のマニュアルページを参照してください。

Winbind を使用する Samba のインスタンスが構成に複数含まれる場合は、Winbind リソースをスケラブルリソースにして、個別の構成ディレクトリを与え、すべての Samba リソースの起動が Winbind スケラブルリソースグループに依存するようにならなければなりません。RG\_dependencies については、`rg_properties(5)` のマニュアルページを参照してください。Winbind の構成ディレクトリを広域ファイルシステムとしてマウントする必要があります。

各 Samba コンポーネントは、`/opt/SUNWscsmb/xxx/util` に構成/登録ファイルがあります。xxx は個々の Samba コンポーネントを表す 3 文字の略語です。これらのファイルによって、Sun Cluster に Samba コンポーネントを登録できます。

これらのファイル内では、適切な依存関係が適用されます。

例 3 Sun Cluster 用の Samba 構成/登録ファイル

```
# cd /opt/SUNWscsmb
#
# ls -l samba/util
```

例 3 Sun Cluster 用の Samba 構成/登録ファイル (続き)

```
total 6
-rwxr-xr-x  1 root    sys      1526 Dec 20 14:44 samba_config
-rwxr-xr-x  1 root    sys      736 Dec 20 14:44 samba_register
#
# ls -l winbind/util
total 4
-rwxr-xr-x  1 root    sys      1006 Dec 20 14:44 winbind_config
-rwxr-xr-x  1 root    sys      613 Dec 20 14:44 winbind_register
#
# more samba/util/samba_config
:::::::::::::
samba/util/samba_config
:::::::::::::
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# This file will be sourced in by samba_register and the parameters
# listed below will be used.
#
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#     RS - name of the resource for the application
#     RG - name of the resource group containing RS
#     SMB_BIN - name of the Samba bin directory
#     SMB_SBIN - name of the Samba sbin directory
#               (If no sbin then specify the bin directory)
#     SMB_INST - name of the Samba configuration directory
#     SMB_LOG - name of the Samba log directory
#               for log.smbd and log.nmbd
#               (If not specified will default
#               to $SMB_INST/logs)
#SMB_LIB_PATH - name of library paths to LD_LIBRARY_PATH
#     FMUSER - name of the Samba fault monitor user
#     FMPASS - name of the Samba fault monitor user password
#     FMDOMAIN - name of the NT-domain faultmonitor user is configured on.
#               ( This should be used if faultmonitor user is not configured
#               on the same NT-domain Samba is member to )
#     LH - name of the LogicalHostname SC resource
#     HAS_RS - name of the Samba HAStoragePlus SC resource
#
#     The following two examples illustrate sample parameters
#     for Samba packaged with Solaris 9 and Samba downloaded
#     from http://www.samba.org.
#
#     Please be aware that /global/samba, /global/samba/SAMBA1 and
#     uid/pwd of samba are used just as examples. You will need
#     change this if your values are different.
#
#     SUNWsmbs* packaged with Solaris 9
#
#     SMB_BIN=/usr/sfw/bin
#     SMB_SBIN=/usr/sfw/sbin
```

例 3 Sun Cluster 用の Samba 構成/登録ファイル (続き)

```
#      SMB_INST=/local/samba/SMB1
#      SMB_LOG=/local/samba/SMB1/logs
#      FMUSER=samba
#      FMPASS=samba
#      FMDOMAIN=
#
#      Latest production release from http://www.samba.org
#
#      SMB_BIN=/global/samba/bin
#      SMB_SBIN=/global/samba/sbin or /global/samba/bin
#      SMB_INST=/global/samba/SAMBA1
#      SMB_LOG=/global/samba/SAMBA1/logs
#      FMUSER=samba
#      FMPASS=samba
#      FMDOMAIN=
#
RS=
RG=
SMB_BIN=
SMB_SBIN=
SMB_INST=
SMB_LOG=
SMB_LIB_PATH=/usr/lib:/usr/local/lib
FMUSER=
FMPASS=
FMDOMAIN=
LH=
HAS_RS=
::::::::::::
# more winbind/util/winbind_config
::::::::::::
winbind/util/winbind_config
::::::::::::
#
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# This file will be sourced in by samba_register and the parameters
# listed below will be used.
#
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#      RS - name of the resource for the application
#      RG - name of the resource group containing RS
#      WB_BIN - name of the Winbind bin directory
#      WB_SBIN - name of the Winbind sbin directory. Used in Samba 3.
#      WB_INST - name of the Winbind configuration directory
#      NTUSER - name of the NT fault monitor user
#WB_LIB_PATH- name of library paths to LD_LIBRARY_PATH
#WB_DISCACHE - Should winbind cache be disabled. Used in Samba 3.
#WB_SINGLEMODE - Should winbind run in single mode. Used in Samba 3.
```

### 例 3 Sun Cluster 用の Samba 構成/登録ファイル (続き)

```
#      LH - name of the LogicalHostname SC resource
#      HAS_RS - name of the Winbind HAStoragePlus SC resource
#
#      The following example illustrates sample parameters
#      for the latest production release of Samba downloaded
#      from http://www.samba.org.
#
#
#      Latest production release from http://www.samba.org
#
#      WB_BIN=/global/samba/bin
#      WB_SBIN=/global/samba/sbin
#      WB_INST=/global/samba/winbind
#      NTUSER=samba
#
RS=
RG=
WB_BIN=
WB_SBIN=
WB_INST=
NTUSER=
WB_LIB_PATH=/usr/lib:/usr/local/lib
WB_DISCACHE=FALSE
WB_SINGLEMODE=FALSE
LH=
HAS_RS=
```

ADS をサポートする Windows 200x サーバーのメンバーとして Samba を設定する必要があり、Samba バイナリが Ldap および kerberos ライブラリと静的にリンクしていない場合、/opt/SUNWscsmb/samba/utils/samba\_config の SMB\_LIB\_PATH パラメータと、/opt/SUNWscsmb/winbind/utils/winbind\_config の WB\_LIB\_PATH を構成して、これらのバイナリが存在するディレクトリを指定する必要があります。

**smb.conf** ファイル — Sun Cluster HA for Samba データサービスには、サンプルの smb.conf ファイルがあります。以下のパラメータが設定されていることを確認してください。

---

注 - smb.conf ファイルは Samba で最も重要なファイルと言えます。smb.conf (5) のマニュアルページを参照し、以下のパラメータの構成に関する詳細を確認してください。Solaris 9 に含まれる Samba のマニュアルページを参照するには SUNWsfman パッケージがインストールされている必要があります。

---

- 2.2.x 用および Samba 3.0.x 用の smb.conf ファイルにある Samba のパラメータ。
  - **bind interfaces only** を True に設定する必要があります。
  - **interface** を論理ホスト名に対して定義する必要があります。
  - **netbios name** は、Samba サーバーを識別する NetBIOS 名に設定する必要があります。

- **security** では、Samba インスタンスがどのセキュリティーモードで稼働するかを指定します。
- 2.2.x 用の `smb.conf` ファイルにある Winbind パラメータ。
  - **workgroup** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **password server** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **template homedir** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **template shell** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind uid** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind gid** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind enum users** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind use default domain** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
- 3.0.x 用の `smb.conf` ファイルにある Winbind パラメータ。
  - **workgroup** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **password server** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **template homedir** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **template shell** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **idmap uid** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **idmap gid** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind enum users** は、Samba の `smb.conf` エントリと同じ値に設定する必要があります。
  - **winbind use default domain** は True に設定する必要があります。

---

注 - ほかの `smb.conf` エントリを作成し、それらのエントリにパス変数が必要な場合、以後のパス名が関連する Samba または Winbind インスタンスの構成ディレクトリ内で作成されていることを確認する必要があります。

---

---

## Samba のインストールと構成

この節では、Samba のインストールと構成に必要な手順について説明します。

これ以降の節では、Samba または Winbind の特定のディレクトリを参照します。前の例で示したこれらの参照の一般的なパス名をまとめておきます。これらの例が示されている13 ページの「構成に関する制限事項」を参照してください。

- Samba を <http://www.samba.org> から広域ファイルシステムにインストールし、広域ファイルシステムに Samba インスタンスと Winbind がある場合 (例 1)
  - *Samba-bin-directory* — /global/samba/bin
  - *Samba-sbin-directory* — /global/samba/sbin または /global/samba/bin (Samba がデフォルトの設定値でインストールされている場合)
  - *Samba-configuration-directory* — /global/samba/SAMBA1
  - *Winbind-configuration-directory* — /global/samba/winbind
- Samba を Solaris 9 からローカルファイルシステムにインストールし、Samba インスタンスがフェイルオーバーファイルシステムにある場合 (例 2)
  - *Samba-bin-directory* — /usr/sfw/bin
  - *Samba-sbin-directory* — /usr/sfw/sbin
  - *Samba-configuration-directory* — /local/samba/SMB1

## Samba をインストールおよび構成するには

1. **Sun Cluster** における **Samba** の配備方法を決定します。
  - 配備する Samba インスタンス数を決定します。
  - Winbind を配備するかどうかを決定します。
  - 各 Samba インスタンスと Winbind インスタンス (配備する場合) に使用させるクラスタファイルシステムを決定します。
2. **Samba** クラスタファイルシステムをマウントします。

---

注 - Samba インスタンスにフェイルオーバーファイルシステムを使用させる場合は、手動でファイルシステムをマウントする必要があります。

---

3. **Sun Cluster** 内の全ノードへ **Samba** をインストールします。

Samba は広域ファイルシステムにインストールすることをお勧めします。ソフトウェアをローカルファイルシステムにインストールした場合と、クラスタファイルシステムにインストールした場合のメリットとデメリットについては、『Sun

Cluster データサービスのインストールと構成』の「アプリケーションバイナリの格納先の決定」を参照してください。

- <http://www.samba.org> から **Samba** をダウンロードします。

`/usr/local/samba` がクラスタファイルシステムであるか、またはクラスタファイルシステムへのシンボリックリンクを持っていることを確認します。Samba ソフトウェアにローカルディスクを使用する場合は、Sun Cluster 内のすべてのノードでこの手順を繰り返す必要があります。

例 1-4 に、Samba 2.2.8a のダウンロード、解凍、展開後、Winbind とともに Samba 2.2.8a をインストールする方法を示します。ADS (Active Directory Support) をサポートする Samba 3 の構築方法については、Samba のマニュアルを参照してください。

```
# cd <samba_install_directory>/source
#
# ./configure --with-winbind --with-pam
#
# make
#
# make install
```

- または、Solaris 9 CD から **Samba** をインストールします。

Sun Cluster 内の Samba サービスを稼働させるすべてのノードに、以下のパッケージをインストールする必要があります。

- SUNWsmbac
- SUNWsmbar
- SUNWsmbau
- SUNWsfman

#### 4. 障害モニターユーザー用のエントリを作成します。

- **Winbind** を使用しない場合:

Sun Cluster のすべてのノードで、`/etc/group` にエントリを作成します。

```
# groupadd -g 1000 <fngroup>
```

Sun Cluster のすべてのノードで `/etc/passwd` にエントリを作成します。このユーザーにはロックされたパスワードを与えます。シェルとホームディレクトリは与えません。

```
# useradd -u 1000 -g 1000 -s /bin/false <fmuser>
```

- **Winbind** を使用する場合:

ホームディレクトリ、ユーザープロファイル、およびログオンスクリプトを指定しないで、NT PDC/ Windows 200x サーバーに障害モニターユーザーを作成します。Password never expire パラメータを True に、User cannot change password パラメータを True に設定します。

#### 5. Samba インスタンス (複数可) に必要なディレクトリを作成します。

複数の Samba インスタンスを配備する場合は、Samba インスタンスごとに、すなわち *samba-configuration-directory* ごとにこの手順を繰り返す必要があります。共有用のディレクトリを作成します。このディレクトリには任意の名前を指定できます。

```
# cd <samba-configuration-directory>
#
# mkdir -p lib logs private shares var/locks
```

---

注 - <*samba-configuration-directory*> については、13 ページの「構成に関する制限事項」を参照し、例で使用される一般的なパス名のリストについては、22 ページの「Samba のインストールと構成」を参照してください。

---

例 1-5 に、SAMBA1 と SAMBA2 という名前の 2 つの Samba インスタンスを示します。Samba は <http://www.samba.org> からインストールされ、*/usr/local/samba* は広域ファイルシステムとしてマウントされた */global/samba* へのシンボリックリンクが設定されています。SAMBA1 の *samba-configuration-directory* は */global/samba/SAMBA1* です。SAMBA2 の *samba-configuration-directory* は */global/samba/SAMBA2* です。

```
# ls -l /usr/local/samba
lrwxrwxrwx  1 root  other          13 Oct 11 11:20 /usr/local/samba ->
/global/samba
#
# cd /global/samba
#
# ls -l
total 18
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Oct 11 15:00 bin
drwxr-xr-x  3 root  other          512 Oct 14 13:49 lib
drwxr-xr-x  6 root  other          512 Oct 11 15:00 man
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Oct 14 10:05 private
drwxr-xr-x  7 root  other          512 Oct 14 13:39 SAMBA1
drwxr-xr-x  7 root  other          512 Oct 14 13:40 SAMBA2
drwxr-xr-x  6 root  other          512 Oct 11 15:01 swat
drwxr-xr-x  3 root  other          512 Oct 14 10:45 var
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Jan 17 09:28 winbind
#
# cd SAMBA1
#
# mkdir -p lib logs private shares var/locks
#
# cd ../SAMBA2
#
# mkdir -p lib logs private shares var/locks
```

6. 要件に基づいて Samba の *smb.conf* ファイルを作成します。

Sun Cluster HA for Samba データサービスは Samba 用のサンプル *smb.conf* ファイルを提供します。

---

注 - Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for Samba パッケージ (SUNWscsmb) をインストールしなかった場合は、31 ページの「Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール」へ進みます。そのあとでここに戻り、Samba のインストールと構成作業を続けてください。

---

/opt/SUNWscsmb/samba/etc/smb.conf\_sample の内容は Samba 構成ファイルのサンプルです。このサンプルファイルを使用して、独自の Samba インスタンス <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf を作成できます。ただし、設定した構成値が反映されるように、ファイルを編集する必要があります。

```
# cp /opt/SUNWscsmb/samba/etc/smb.conf_sample \
  <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

Winbind コンポーネントをインストールしている場合は smb.conf\_sample をコピーしたあとで、<samba-configuration-directory>/lib/smb.conf の global セクションに以下のエントリを追加する必要があります。以下の値は、smb.conf (5) のマニュアルページに基づいたデフォルト値です。

```
winbind uid = 10000-20000
winbind gid = 10000-20000
winbind enum users = yes
winbind enum groups = yes
```

---

注 - pid directory は、smb.conf\_sample の中で指定されているように、<samba-configuration-directory> /var/locks を示さなければなりません。

---

7. Samba smb.conf ファイルをテストします。

```
# <samba-bin-directory>/testparm \
  <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

8. NT ドメインメンバーとして構成され、Samba 2.2.x を使用している場合は、ドメインを結合します。

```
# <samba-bin-directory>/smbpasswd \
  -c <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf \
  -j <DOMAIN> -r <PDC> \
  -U <Administrator on the PDC>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# smbpasswd: Joined domain <DOMAIN>
```

9. NT ドメインメンバーとして構成され、Samba 3.0.x を使用している場合は、ドメインを結合します。

```
# <samba-bin-directory>/net \
  -s <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf \
  RPC JOIN
```

```
-U <Administrator on the PDC>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# Joined domain <DOMAIN>
```

10. ADS をサポートする Windows 200x ドメインメンバーとして構成されている場合は、ドメインを結合します。

```
# <samba-bin-directory>/net \
-s <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf \
ADS JOIN \
-U <Administrator on the Windows 200x Domain>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# Joined <NETBIOS> to realm <REALM>
```

11. PDC として構成されている場合、または `security = user` を指定して構成されている場合は障害モニターユーザーを追加します。

```
# <samba-bin-directory>/smbpasswd \
-c <samba-configuration-directory>/lib/smb.conf \
-a <fmuser>
```

---

注 - Solaris 9 のパッケージに組み込まれている Samba v2.2.2 では、smbpasswd プログラムが `-c` パラメータを認識せず、`/etc/sfw` で `smb.conf` ファイルを見つけようとしています。この問題を回避するには、`/etc/sfw/smb.conf` から `<samba-configuration-directory>/lib/smb.conf` へのシンボリックリンクを作成します。複数の Samba インスタンスを配備する場合はシンボリックリンクを削除し、Samba インスタンスごとに手順を繰り返す必要があります。

パッチ 114684-01 以降がインストールされている場合は、smbpasswd が `-c` パラメータを認識します。

Samba 3.0.x を使用している場合は、pdbedit を使用してユーザーをほかのパスワードバックエンドに追加できます。pdbedit とそのほかのパスワードバックエンドの使用法については、Samba のマニュアルを参照してください。

---

12. Winbind インスタンスに必要なディレクトリを作成します。

以下の手順が必要なのは Winbind コンポーネントを使用する場合だけです。それ以外の場合は、以下の手順を省いて、29 ページの「Samba のインストールと構成の確認」に進んでください。

Winbind を配備する場合は、`winbind-configuration-directory` 内に以下のディレクトリとシンボリックリンクを作成する必要があります。

```
# cd <winbind-configuration-directory>
#
# mkdir -p lib locks private var
# mkdir -p /var/winbind/pid
# ln -s /var/winbind/pid var/locks
```

---

注 - <*winbind-configuration-directory*> については、13 ページの「構成に関する制限事項」を参照し、例で使用される一般的なパス名のリストについては、22 ページの「Samba のインストールと構成」を参照してください。

---

例 1-6 に Winbind インスタンスを示します。Samba は <http://www.samba.org> からインストールされていて、`/usr/local/samba` は広域ファイルシステムとしてマウントされた `/global/samba` へのシンボリックリンクが設定されています。Winbind 用の *winbind-configuration-directory* は `/global/samba/winbind` です。

```
# ls -l /usr/local/samba
lrwxrwxrwx  1 root  other          13 Oct 11 11:20 /usr/local/samba ->
/global/samba
#
# cd /global/samba
#
# ls -l
total 18
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Oct 11 15:00 bin
drwxr-xr-x  3 root  other          512 Oct 14 13:49 lib
drwxr-xr-x  6 root  other          512 Oct 11 15:00 man
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Oct 14 10:05 private
drwxr-xr-x  7 root  other          512 Oct 14 13:39 SAMBA1
drwxr-xr-x  7 root  other          512 Oct 14 13:40 SAMBA2
drwxr-xr-x  6 root  other          512 Oct 11 15:01 swat
drwxr-xr-x  3 root  other          512 Oct 14 10:45 var
drwxr-xr-x  2 root  other          512 Jan 17 09:28 winbind
#
# cd winbind
#
# mkdir -p lib locks private var
# mkdir -p /var/winbind/pid
# ln -s /var/winbind/pid var/locks
```

13. 要件に基づいて Winbind の `smb.conf` ファイルを作成します。

Sun Cluster HA for Samba データサービスは Winbind 用のサンプル `smb.conf` ファイルを提供します。

---

注 - Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for Samba パッケージ (SUNWscsmb) をインストールしなかった場合は、31 ページの「Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール」へ進みます。そのあとでここに戻り、Samba のインストールと構成作業を続けてください。

Winbind リソースがスケラブルなリソースとして運用されない場合、Samba と同じ構成ディレクトリを使用し、Winbind のパラメータを使用して `smb.conf` ファイルを更新することができます。

---

/opt/SUNWscsmb/winbind/etc/smb.conf\_sample の内容は Winbind 構成ファイルのサンプルです。このサンプルファイルを使用して、独自の Winbind インスタンス <winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf を作成できます。設定した構成値が反映されるように、ファイルを編集する必要があります。また、smb.conf ファイル内の [global] セクションには次のエントリを追加する必要があります。

```
# cp /opt/SUNWscsmb/winbind/etc/smb.conf_sample \
<winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

smb.conf\_sample をコピーしたあとで、以下のエントリを <winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf の [global] セクションに追加する必要があります。

```
smb passwd file = <winbind-configuration-directory>/private
lock directory = <winbind-configuration-directory>/locks
pid directory = <winbind-configuration-directory>/var/locks
```

---

注 - Winbind コンポーネントをスケラブルサービスとして動作させる場合は、Winbind の構成ディレクトリを広域ファイルシステムとしてマウントする必要があります。ロックディレクトリを使用してデータベースに登録する Name and ID Resolution については、winbindd (8) のマニュアルページを参照してください。

pid directory は、構成ディレクトリ /var/locks を示さなければなりません。さらに、構成ディレクトリ /var/locks はローカルファイルシステム、すなわち /var/winbind/pid に対するシンボリックリンクであることを確認します。

---

14. Winbind をネームサービスとして追加します (Sun Cluster HA for Samba データサービスが稼働するすべてのノード上の passwd および group の /etc/nsswitch.conf に対して)。

```
# grep winbind /etc/nsswitch.conf
passwd:      files winbind
group:       files winbind
```

15. シンボリックリンクをコピーおよび作成します。

Sun Cluster HA for Samba データサービスが稼働するすべてのノード上で、Winbind 用にいくつかのファイルとシンボリックリンクを設定する必要があります。

```
# cd <samba-install-directory>
#
# cp source/nsswitch/libnss_winbind.so /usr/lib
#
# ln -s /usr/lib/libnss_winbind.so /usr/lib/libnss_winbind.so.1
#
# ln -s /usr/lib/libnss_winbind.so /usr/lib/nss_winbind.so.1
```

16. 1 つのノードで Winbind を起動します。

---

注 - Samba のインストール方法によって、winbind プログラムは <samba-bin-directory> に置かれる場合と、 <samba-sbin-directory> に置かれる場合があります。

---

```
# <samba-[s]bin-directory>/winbindd -s <winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

17. Winbind データベースにデータを入力します。

```
# getent passwd
# getent group
```

18. winbindd を停止します。

```
# pkill -TERM winbindd
```

---

## Samba のインストールと構成の確認

この節では、インストールと構成の確認に必要な手順を説明します。

### ▼ Samba のインストールと構成を確認するには

データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションの可用性が高いかどうかを確認することはできません。

---

注 - Samba のインストールと構成を確認する前に、Samba に対応する論理ホスト名が利用できることを確認してください。論理ホスト名を利用するには、[34 ページ](#)の「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Samba の登録と構成方法」の手順 4、6、および 7 を完了する必要があります。

---

手順 1. **smb.conf** ファイルをテストします。

a. Samba の **smb.conf** ファイルをテストします。

```
# <samba-bin-directory>/testparm \
<samba-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

b. Winbind の **smb.conf** ファイルをテストします (必要な場合)。

```
# <samba-bin-directory>/testparm \
<winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf
```

2. NT ドメインメンバーとして構成されている場合は、ドメインを結合します。

```
# <samba-bin-directory>/smbpasswd \  
-c <samba-config-directory>/lib/smb.conf \  
-j <DOMAIN> -r <PDC> \  
-U <Administrator on the PDC>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# smbpasswd: Joined domain <DOMAIN>
```

```
# <samba-bin-directory>/net \  
-s <samba-config-directory>/lib/smb.conf \  
\  
-U <Administrator on the PDC>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# Joined domain <DOMAIN>
```

3. ADS を備えた Windows 200x のメンバーとして構成されている場合は、領域を結合します。

```
# <samba-bin-directory>/net \  
-s <samba-config-directory>/lib/smb.conf \  
\  
-U <Administrator on the PDC>
```

正常に処理されると、次のメッセージが表示されます。

```
# Joined <NETBIOS> to realm <REALM>
```

4. Samba デーモンを起動します。

---

注 - Samba のインストール方法によって、smbd プログラムと nmbd プログラムは <samba-bin-directory> に置かれる場合と、<samba-sbin-directory> に置かれる場合があります。

---

```
# <samba-[s]bin-directory>/smbd -s <samba-config-directory>/lib/smb.conf -D  
# <samba-[s]bin-directory>/nmbd -s <samba-config-directory>/lib/smb.conf -D
```

5. Samba に接続します。

```
# <samba-bin-directory>/smbclient -N -L <NetBIOS-name>  
# <samba-bin-directory>/smbclient '\\<NetBIOS-name>\scomdir' \  
-U <fmuser> -c 'pwd;exit'
```

---

注 - 最後のコマンドには単一引用符が必要です。

---

6. Winbind デーモンを起動します (必要な場合)。

---

注 - Samba のインストール方法によって、winbind プログラムは <samba-bin-directory> に置かれる場合と、<samba-sbin-directory> に置かれる場合があります。

---

```
# <samba-[s]bin-directory>/winbindd -s <winbind-configuration-directory>/lib/smb.conf &
```

7. Winbind に接続します (必要な場合)。

```
# getent passwd  
# getent group
```

8. Samba デーモンと winbindd (必要な場合) を停止します。

```
# pkill -TERM smbd  
# pkill -TERM nmbd  
# pkill -TERM winbindd
```

---

## Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール

Sun Cluster のインストールで Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールしなかった場合は、ここで説明する作業を行なってパッケージをインストールしてください。この手順は、Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする各クラスタノード上で個別に実行します。この手順を実行するには、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。

複数のデータサービスを同時にインストールする場合は、『Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』の「ソフトウェアのインストール」に記載されている手順を実行してください。

次のインストールツールのどちらかを使用して、Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールします。

- Web Start プログラム
- scinstall ユーティリティ

---

注 - Solaris 10 を使用している場合、大域ゾーンでのみこれらのパッケージをインストールします。パッケージをインストールしたあとで作成されたローカルゾーンにこれらのパッケージが転送されないようにするには、scinstall ユーティリティを使用してパッケージをインストールしてください。Web Start プログラムは使用しないでください。

---

## ▼ Web Start プログラムを使用した Sun Cluster HA for Samba パッケージのインストール方法

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を使用して実行できます。CLI と GUI での作業の内容と手順はほとんど同じです。Web Start プログラムの詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

- 手順
1. **Sun Cluster HA for Samba** パッケージをインストールするクラスタノード上で、スーパーユーザーになります。
  2. (省略可能) GUI で **Web Start** プログラムを実行する場合は、**DISPLAY** 環境変数が設定されていることを確認してください。
  3. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。  
ボリューム管理デーモン `vol1d(1M)` が実行されており、**CD-ROM** デバイスを管理するように構成されている場合は、デーモンによって **CD-ROM** が自動的に `/cdrom/cdrom0` ディレクトリにマウントされます。
  4. **CD-ROM** の **Sun Cluster HA for Samba** コンポーネントディレクトリに移動します。  
Sun Cluster HA for Samba データサービスの Web Start プログラムは、このディレクトリに入っています。  

```
# cd /cdrom/cdrom0/components/SunCluster_HA_Samba_3.1
```
  5. **Web Start** プログラムを起動します。  

```
# ./installer
```
  6. プロンプトが表示されたら、インストールの種類を選択します。
    - C ロケールのみをインストールする場合は、**Typical** を選択します。
    - ほかのロケールをインストールする場合は、**Custom** を選択します。
  7. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for Samba** パッケージをインストールします。  
インストールが終了すると、**Web Start** プログラムのインストールサマリーが出力されます。このサマリーを使用して、インストール時に **Web Start** によって作成されたログを確認できます。これらのログは、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあります。
  8. **Web Start** プログラムを終了します。
  9. **Sun Cluster Agents CD-ROM** を **CD-ROM** ドライブから取り出します。
    - a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上のディレクトリ以外に移動します。

b. **CD-ROM** を取り出します。

```
# eject cdrom
```

## ▼ **scinstall** ユーティリティーを使用して Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする

**scinstall** ユーティリティーを使用して、次の手順で Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールします。この作業には、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。この手順では、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービスパッケージをインストールしていない場合を想定しています。

Sun Cluster の初期インストールの一部として Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールした場合は、34 ページの「[Sun Cluster HA for Samba の登録と構成](#)」に進みます。

それ以外の場合は、次の手順で、Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールします。この作業は、Sun Cluster HA for Samba データサービスを実行できるすべてのノードで行います。

- 手順
1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
  2. オプションは指定せずに、**scinstall** ユーティリティーを実行します。  
**scinstall** ユーティリティーが対話型モードで起動します。
  3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。  
**scinstall** ユーティリティーにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
  4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。  
ユーティリティーはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。
  5. インストールするデータサービスを指定します。  
選択したデータサービスが **scinstall** ユーティリティーによって示され、この選択内容の確認が求められます。
  6. **scinstall** ユーティリティーを終了します。
  7. ドライブから **CD** を取り出します。

---

# Sun Cluster HA for Samba の登録と構成

ここでは Sun Cluster HA for Samba の構成手順について説明します。

## ▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Samba の登録と構成方法

この手順は、Sun Cluster の初回のインストール時にこのデータサービスパッケージをインストールしている場合を想定しています。

Sun Cluster の初回インストールの一部として Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールしていない場合は、33 ページの「[scinstall ユーティリティ](#)を使用して Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする」へ進みます。

手順 1. **Samba** のホストとなるクラスタノードの 1 つで、スーパーユーザーになります。

2. **SUNW.gds** リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.gds
```

3. **SUNW.HAStoragePlus** リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```

4. フェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g Samba-failover-resource-group
```

5. **Samba** ディスク記憶装置に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j Samba-has-resource \
-g Samba-failover-resource-group \
-t SUNW.HAStoragePlus \
-x FilesystemMountPoints=Samba- instance-mount-points
```

6. **Samba** 論理ホスト名に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -L -j Samba-lh-resource \
-g Samba-failover-resource-group \
-l Samba-logical-hostname
```

7. **Samba** ディスク記憶装置と 論理ホスト名のリソースが組み込まれたフェイルオーバーリソースグループを有効にします。

```
# scswitch -z -g Samba-failover-resource-group
```

8. フェイルオーバーデータサービスとして **Winbind** を作成し、登録します。

```
# cd /opt/SUNWscsmb/winbind/util
```

winbind\_config ファイルを編集し、ファイルの中の次のようなコメントに従います。

```
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#       RS - name of the resource for the application
#       RG - name of the resource group containing RS
#   WB_BIN - name of the Winbind bin directory
#   WB_SBIN - name of the Winbind sbin directory. Used in Samba 3.
#   WB_INST - name of the Winbind configuration directory
#   NTUSER - name of the NT fault monitor user
#WB_LIB_PATH- name of library paths to LD_LIBRARY_PATH
#WB_DISCACHE - Should winbind cache be disabled. Used in Samba 3.
#WB_SINGLEMODE - Should winbind run in single mode. Used in Samba 3.
#       LH - name of the LogicalHostname SC resource
#   HAS_RS - name of the Winbind HAStoragePlus SC resource
```

<http://www.samba.org> から Samba をインストールした場合の、Winbind インスタンスの例を示します。

```
RS=wb-res
RG=smb-failover-rg
WB_BIN=/global/samba/bin
WB_INST=/global/samba/SAMBA1
NTUSER=samba
WB_LIB_PATH=/usr/lib:/usr/local/lib
WB_DISCACHE=FALSE
WB_SINGLEMODE=FALSE
LH=smb-lh-res
HAS_RS=wb-has-res
```

winbind\_config の編集後、リソースを登録する必要があります。

```
# ./winbind_register
```

#### 9. Winbind リソース (前の手順で登録した場合) を有効にします。

```
# scstat
# scswitch -e -j Winbind-resource
```

#### 10. フェイルオーバーデータサービスとして Samba を作成し、登録します。

```
# cd /opt/SUNWscsmb/samba/util
samba_config ファイルを編集し、ファイルの中の次のようなコメントに従います。.
```

```
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#       RS - name of the resource for the application
#       RG - name of the resource group containing RS
#   SMB_BIN - name of the Samba bin directory
#   SMB_SBIN - name of the Samba sbin directory
#               (If no sbin then specify the bin directory)
#   SMB_INST - name of the Samba configuration directory
#   SMB_LOG - name of the Samba log directory
#               for log.smbd and log.nmbd
#               (If not specified will default
```

```

#           to $SMB_INST/logs)
#SMB_LIB_PATH - name of library paths to LD_LIBRARY_PATH
#   FMUSER - name of the Samba fault monitor user
#   FMPASS - name of the Samba fault monitor user password
#   FMDOMAIN - name of the NT-domain faultmonitor user is configured on.
#             ( This should be used if faultmonitor user is not configured
#             on the same NT-domain Samba is member to )
#   LH - name of the LogicalHostname SC resource
#   HAS_RS - name of the Samba HASToragePlus SC resource

```

http://www.samba.org から Samba をインストールした場合の、Samba インスタンス SAMBA1 の例を示します。

```

RS=smb-res
RG=smb-failover-rg
SMB_BIN=/global/samba/bin
SMB_SBIN=/global/samba/sbin or /global/samba/bin
SMB_INST=/global/samba/SAMBA1
SMB_LOG=/global/samba/SAMBA1/logs
SMB_LIB_PATH=/usr/lib:/usr/local/lib
FMUSER=samba
FMPASS=samba
FMDOMAIN=
LH=smb-lh-res
HAS_RS=smb-has-res or
HAS_RS=smb-has-res,wb-res if failover winbind is being used

```

Solaris 9 から Samba をインストールした場合の、Samba インスタンス SMB1 の例を示します。

```

RS=smb-res
RG=smb-failover-rg
SMB_BIN=/usr/sfw/bin
SMB_SBIN=/usr/sfw/sbin
SMB_INST=/local/samba/SMB1
SMB_LOG=/local/samba/SMB1/logs
FMUSER=samba
FMPASS=samba
LH=smb-lh-res
HAS_RS=smb-has-res

```

samba\_config の編集後、リソースを登録する必要があります。

```
# ./samba_register
```

## 11. 各 Samba リソースを有効にします。

複数のインスタンスを作成した場合は、Samba インスタンスごとにこの手順を繰り返します。

```

# scstat
# scswitch -e -j Samba-resource

```

## ▼ Winbind をスケーラブルサービス、Sun Cluster HA for Samba をフェイルオーバーサービスとして登録および構成する方法

この手順は、Sun Cluster の初回のインストール時にこのデータサービスパッケージをインストールしている場合を想定しています。

Sun Cluster の初回インストールの一部として Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールしていない場合は、33 ページの「[scinstall ユーティリティーを使用して Sun Cluster HA for Samba パッケージをインストールする](#)」へ進みます。

- 手順
1. **Samba** のホストとなるクラスタノードの **1** つで、スーパーユーザーになります。
  2. **SUNW.gds** リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.gds
```
  3. **SUNW.HAStoragePlus** リソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```
  4. 共有ネットワークアドレスに対応するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g Winbind-failover-resource-group
```
  5. **Winbind** 論理ホスト名に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -s -j Winbind-lh-resource \  
-g Winbind-failover-resource-group \  
-l Winbind-logical-hostname
```
  6. スケーラブル **Winbind** サービスに対応するスケーラブルリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g Winbind-scalable-resource-group \  
-y Maximum primaries=<number of nodes with Sun Cluster> \  
-y Desired primaries=<number of nodes with Sun Cluster> \  
-y RG_dependencies=Winbind-failover-resource-group
```
  7. **Winbind** ディスク記憶装置に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j Winbind-has-resource \  
-g Winbind-scalable-resource-group \  
-t SUNW.HAStoragePlus \  
-x FilesystemMountPoints=Winbind-instance-mount-point \  
-x AffinityOn=FALSE
```
  8. **Winbind** ディスク記憶装置と 論理ホスト名のリソースが組み込まれたフェイルオーバーリソースグループとスケーラブルリソースグループを有効にします。

```
# scswitch -Z -g Winbind-failover-resource-group  
# scswitch -Z -g Winbind-scalable-resource-group
```

9. フェイルオーバーデータサービスとして **Samba** を作成し、登録します。

34 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Samba の登録と構成方法」の手順4、5、6、7、10、および 11 に従って、フェイルオーバー Samba サービスを作成します。そのあとでこの最後の手順を完了して、フェイルオーバー Samba リソースグループがスケーラブル Winbind リソースグループに依存して起動することを確認する必要があります。

```
# scrgadm -c -g Samba-failover-resource-group \  
-y RG_dependencies=Winbind-sclable-resource-group
```

10. Winbind をスケーラブルデータサービスとして作成し、登録します。

```
# cd /opt/SUNWscsmb/winbind/util
```

winbind\_config ファイルを編集し、ファイルの中の次のようなコメントに従います。

```
# These parameters can be customized in (key=value) form  
#  
# RS - name of the resource for the application  
# RG - name of the resource group containing RS  
# WB_BIN - name of the Winbind bin directory  
# WB_SBIN - name of the Winbind sbin directory. Used in Samba 3.  
# WB_INST - name of the Winbind configuration directory  
# NTUSER - name of the NT fault monitor user  
#WB_LIB_PATH- name of library paths to LD_LIBRARY_PATH  
#WB_DISCACHE - Should winbind cache be disabled. Used in Samba 3.  
#WB_SINGLEMODE - Should winbind run in single mode. Used in Samba 3.  
# LH - name of the LogicalHostname SC resource  
# HAS_RS - name of the Winbind HAStoragePlus SC resource
```

<http://www.samba.org> から Samba をインストールした場合の、Winbind インスタンスの例を示します。

```
RS=wb-res  
RG=wb-scalable-rg  
WB_BIN=/global/samba/bin  
WB_INST=/global/samba/winbind  
NTUSER=samba  
WB_LIB_PATH=/usr/lib:/usr/local/lib  
WB_DISCACHE=FALSE  
WB_SINGLEMODE=FALSE  
LH=wmb-lh-res  
HAS_RS=wb-has-res
```

winbind\_config の編集後、リソースを登録する必要があります。

```
# ./winbind_register
```

11. Winbind リソースを有効にします。

```
# scstat  
# scswitch -e -j Winbind-resource
```

---

## Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされ構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

### ▼ Sun Cluster HA for Samba のインストールと構成の確認方法

- 手順
1. **Samba** のホストとなるクラスタノードの 1 つで、スーパーユーザーになります。
  2. すべての **Samba** リソースがオンラインになっていることを **scstat** で確認します。

```
# scstat
```

オンラインになっていない Samba リソースごとに、次のように **scswitch** コマンドを使用します。

```
# scswitch -e -j Samba-resource
```

3. **scswitch** コマンドを実行し、**Samba** リソースグループをほかのクラスタノード (*node2* など) に切り替えます。

```
# scswitch -z -g Samba-failover-resource-group -h node2
```

---

## Sun Cluster HA for Samba のアップグレード

バグ修正の結果、Sun Cluster HA for Samba の構成が変更されています。Sun Cluster HA for Samba を実行している場合、Sun Cluster HA for Samba の次のコンポーネントのリソースを削除し再登録する必要があります。

- Samba コンポーネント
- Winbind コンポーネント

## ▼ Sun Cluster HA for Samba のアップグレード方法

削除および再登録する必要がある各 Samba リソースに対して、この作業を実行します。

手順 1. リソース定義を保存します。

```
# scrgadm -pvv -j resource > file1
```

2. リソースを無効にします。

```
# scswitch -n -j resource
```

3. リソースを削除します。

```
# scrgadm -r -j resource
```

4. リソースを構成し、登録します。

a. リソースの構成ファイルと登録ファイルが含まれるディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/SUNWscsmb/prefixutil
```

b. リソースの構成ファイルを編集します。

```
vi prefix_config
```

c. リソースの構成ファイルを実行します。

```
# ./prefix_register
```

*prefix* は、次のように、ファイルの適用対象であるコンポーネントを意味します。

- *samba* は Samba コンポーネントを意味します。
- *winbind* は Winbind コンポーネントを意味します。

5. リソース定義を保存します。

```
# scrgadm -pvv -j resource > file2
```

6. 更新した定義を、リソースを更新する前に保存した定義と比較します。

これらの定義を比較することで、タイムアウトの値など、既存の拡張プロパティが変更されたかどうかを判別することができます。

```
# diff file1 file2
```

7. リセットされたリソースのプロパティを修正します。

```
# scrgadm -c -j resource -x|y resource
```

8. リソースをオンラインにします。

```
# scswitch -e -j resource
```

---

## Sun Cluster HA for Samba 障害モニター の概要

ここでは、Sun Cluster HA for Samba 障害モニターのプローブアルゴリズムまたは機能について説明し、プローブの失敗に関連する条件、メッセージ、回復処理を示します。

障害モニターの概念については、『Sun Cluster 3.1 の概念』を参照してください。

### リソースプロパティ

Sun Cluster HA for Samba 障害モニターでは、リソースタイプ `SUNW.gds` と同じリソースプロパティを使用します。使用するリソースプロパティの全リストについては、`SUNW.gds (5)` のマニュアルページを参照してください。

### 検証アルゴリズムと機能

- **Samba** の検証手順
  - `Thorough_probe_interval` の間、休止します。
  - `smbclient` を使用し、ユーザー `<fmuser>` として、Samba インスタンス障害モニター共有 (`scmondird`) に接続を試みます。これに失敗すると、検証により Samba リソースを再起動します。
  - `smbclient` は Samba サーバーの NetBIOS 名を使用して、NetBIOS 名のサーバーが動作するかどうかを確認します。これに失敗すると、検証により Samba リソースを再起動します。
  - すべての Samba プロセスが無効な場合は、`pmf` が検証に割り込んでただちに Samba リソースを再起動します。
  - Samba リソースが繰り返し再起動され、`Retry_interval` の `Retry_count` を使い果たすと、別のノードでそのリソースグループのフェイルオーバーが開始されます。
- **Winbind** の検証手順
  - `Thorough_probe_interval` の間、休止します。
  - `getent passwd <ntuser>` を使用して、定義された `<ntuser>` を取得します。これに失敗すると、検証により Winbind リソースを再起動します。
  - Winbind リソースが繰り返し再起動され、`Retry_interval` の `Retry_count` を使い果たすと、別のノードでそのリソースグループのフェイルオーバーが開始されます。

---

注 - nscd がオン (デフォルト) で、定義されている <ntuser> が nscd デーモンによってキャッシュされる場合は、Winbind 自体は動作していても、キャッシュからユーザーが削除されるまで、getent から成功の応答が戻ります。

---

## Sun Cluster HA for Samba のデバッグ

### ▼ Sun Cluster HA for Samba のデバッグを有効にする

Sun Cluster HA for Samba は複数の Samba インスタンスで使用できます。デバッグは、すべての Samba インスタンスに対して有効にすることも、特定の Samba インスタンスに対して有効にすることもできます。

各 Samba コンポーネントは、`/opt/SUNWscsmb/xxx/etc` に DEBUG ファイルがあります。xxx は個々の Samba コンポーネントを表す 3 文字の略語です。

これらのファイルによって、Sun Cluster の特定のノードで特定の Samba インスタンスに対してデバッグを有効にすることも、またはすべての Samba インスタンスに対してデバッグを有効にすることもできます。Sun Cluster 全体で Sun Cluster HA for Samba のデバッグを有効にする必要がある場合は、この手順を Sun Cluster 内のすべてのノードで繰り返します。

- 手順 1. `/etc/syslog.conf` を編集し、`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更します。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.notice;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                    operator
#
```

`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更し、`syslogd` を再起動します。次に示す `grep daemon /etc/syslog.conf` の出力例では、`daemon.debug` が設定されています。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.debug;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                    operator
#
# pkill -1 syslogd
#
```

2. `/opt/SUNWscsmb/samba/etc/config` を編集します。

必要に応じて Sun Cluster の各ノードで、Samba コンポーネント (smb) に対してこの手順を実行し、さらにデバッグ出力が必要な Winbind コンポーネント (必要な場合) で手順を繰り返します。

/opt/SUNWscsmb/samba/etc/config を編集し、DEBUG= を DEBUG=ALL または DEBUG=resource に変更します。

```
# cat /opt/SUNWscsmb/samba/etc/config
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# Usage:
#     DEBUG=<RESOURCE_NAME> or ALL
#
DEBUG=ALL
#
```

---

注 - デバッグを無効にするには、これらの手順を逆にします。

---



# 索引

---

## C

C ロケール, 32

## P

prtconf -v コマンド, 10

prtdiag -v コマンド, 10

psrinfo -v コマンド, 10

## S

Samba, 12-13

Samba コンポーネント

    Samba, 13

    Winbind, 14

scinstall -pv コマンド, 10

showrev -p コマンド, 10

Sun Cluster HA for Samba

    インストール

        Web Start プログラムを使用して, 32-33

## V

/var/sadm/install/logs ディレクトリ, 32

## W

Web Start プログラム, 32-33

## い

インストール

    Samba のインストールと設定方法, 22-29

    Sun Cluster HA for Samba のインストールと  
    構成の確認, 39

    Sun Cluster HA for Samba

        Web Start プログラムを使用して, 32-33

        作成されたログファイル, 32

## こ

構成

    Samba のインストールと構成の確認, 29-31

    nsswitch.conf 構成ファイル, 28

    samba\_config 構成ファイル, 35

    Samba バイナリのインストール, 22-29

    smb.conf 構成ファイル, 20

    winbind\_config 構成ファイル, 38

    構成に関する制限事項, 13-16

    構成に関する要件, 16-22

コマンド

    groupadd コマンド, 23

    samba\_register コマンド, 36

    scrgadm コマンド, 34, 37

    scstat コマンド, 39

    scswitch コマンド, 36

    smbclient コマンド, 30

    smbpasswd コマンド, 25, 26

    testparm コマンド, 25

    useradd コマンド, 23

    winbind\_register コマンド, 38

    winbindd コマンド, 29

コマンド (続き)  
ノード情報, 9

リソースタイプ (続き)  
SUNW.StoragePlus リソースタイプ, 34

し  
障害監視  
  検証アルゴリズムと機能, 41-42  
  リソースプロパティ, 41  
障害モニター, Sun Cluster HA for Samba 障害  
  モニターの理解, 41-42

ろ  
ローカルゾーン, 31  
ログファイル, インストール, 32  
ロケール, 32

せ  
制限, ゾーン, 31

そ  
ゾーン, 31

た  
大域ゾーン, 31

て  
ディレクトリ,  
  /var/sadm/install/logs, 32

と  
トレーニング, 9

ふ  
ファイル, インストールログ, 32

り  
リソースタイプ  
  SUNW.gds リソースタイプ, 34